

<高齢者をささえるしくみの現状>

上越市の支え合い事業……行政が13区振興会に委託

*将来的には地域で運営してほしいと思っているが…?

振興会は地域包括支援センターまたは各区の社協に委託して運営している状態

- ① 地域の通い場②介護予防教室③認知症カフェ④介護者家族の会
- ⑤ 訪問型サービスの提供(12月より利用開始)

①～④の運営については地域の中でバラつきがある。

企画の内容に苦慮している(参加者があつまりにくい事業や地域もある)

支え合い事業を運営していくコーディネーター役の人材不足(地域包括ではなく地域住民の存在が必要)

疑問①運営ボランティアは無償でよいのか?(専門的なことができない)

疑問②人材の不足をどうやって解消するのか?

疑問③地域でどうやって運営のしくみ(企画力不足等)を作るのか?

地域の茶の間、イキイキサロン…上越市社会福祉協議会が実施 町内会での運営またはやりたい人を支援

疑問①やりたい人を待つのか?…手を挙げる人が少ない

疑問②町内会だけでやれるのか?…運営力や人材が不足している

*どちらも似たような事業で市民にはわかりづらい。

昨年も市民大学の講座で行政と社会福祉協議会の担当者と呼んで話を聞いている

地域におけるその他の関係者

町内会長、民生委員、健康づくり推進リーダー、食生活推進リーダー、公民館協力員

イメージ……ほとんどが頼まれ役。名誉職。ヤダヤダやっている。役割が曖昧で認知度が低

*役割を明確にし、やりたい人やれば力が発揮できる

地域包括支援センターは介護のお困りごとを相談できる拠点ではあるが……。

現状の仕事が忙しくてなかなかうまく機能していない

本来の業務ではないことが多い……支え合い事業の運営は包括の仕事?

地域ケア会議は地域を支える重要な会議ではあるが当て職が多く機能的には?

認知症サポーター養成講座……平成27年度13172人平成28年度末で15600人を目指す

個々の知識の習得のみで横のつながりが少ない。情報を共有するネットワークが必要では?

サポーター養成講座を開催する講師が少ない

<今後の課題と対策案>

1・要支援の人の見守り・サポート支援のしくみをどうやってつくるか(上越市の認知症の人数は7675人)

2・行政まかせではなくどうやって地域の元気出しをしていくか

○元気な人を元気な地域で支える仕組みを自分たちで考えて作ろう

3・地域にとって必要な役割や人(事)とはどんな人(事)か?

○当事者にとって介護者と地域をつないでくれる人…お困りごとを相談できる人を増やす

4.上越市支え合い事業をどのように運営していくか

○両隣の地域との連携をはかり、行政や地域間で情報の共有化をする(ネットワークづくり)

公民館を地域の拠点として活用する(公共の気軽さを利用)……公民館講座で地域に必要な知識と知恵を学ぼう

種蒔きを行う…人材育成の出前講座を町内会事業の中で開く。やる気の芽を見つける…大きな木へ育てる

段階的に地域の中で「地域に必要な人材」を育てていこう…町内会役員～PTA役員～振興会役員～

地域協議会委員～市議会議員…